

南瓜栽培

〔農業全書三〕南瓜

南瓜是南方よりたね來る故、かく云なるべし、甘瓜西瓜のごとく、菓子になる物にはあらず、猪肉、鶏鴨のあつ物、其外魚鳥と合せて煮て食し、料理色々あり、唐人甚賞す、西國にては賞翫する物なり、農書に、陰地によしとあれど、日あて能所よし、うへ様西瓜に替事なし、區まはを廣く深くし、蒔付にも、又苗うへもよし、取分海邊沙風の當る、南向の肥地沙地に宜し、鶏家鴨の糞など多く用ひてなる程肥し、草屋の上には、せ、又高き岸などに引上、或は棚をかき、冬瓜夕がほのごとくするもよし、柴など折しきて平地には、するもよし、根の廻り五三尺の間、いかにもよく肥して、つるのゆくさきくは、芝原猶よし、土手などある所ならは、是又宜し、或屋敷の肥地に根を種へ、民の屋の上には、せ、又は前に云ごときの空地、屋敷の邊にあらばは、すべし、勝れてつる長くは、ふ物なれば、よき島には作りがたし、但やせ地に糞すくなくては、盛長せず、又是もさきを留る事なし、深き肥たる砂地に、糞にあかせて作りたるには、甚ふとき瓜、一本に二三十もなる物なり、いか程もふとく外堅くすね、色あかく成たる時取て、下に竹のす又は蘆す、きなどの簀をしき、日のあたらざるには、の内などにならべ置か、又かつらにて痛まぬやうに、からげ、屋の内につり置もよし、

〔毛吹草三〕肥前 ポブラ

〔和爾雅六〕西瓜スイク寒瓜スイク

〔書言字考節用集六〕西瓜スイク一名寒瓜、大元世祖皇帝征西域之後、此種入于中華、見五雜俎

〔五雜俎十〕古人於瓜極重、大戴禮、夏小正、五月乃瓜、八月剝瓜、爾風、七月食瓜、小雅、中田有蘆、疆場有

瓜、是剝是菹、獻之皇祖、曾孫壽考、受天之祜、今人醃瓜為菹、不可以享下賓、而況祭祖考乎、但古人之

瓜亦多種類、非今之西瓜也、西瓜自宋洪皓始携歸中國、自此而外、有木瓜、王瓜、金瓜、甜瓜、廣志所載、

又有烏瓜、魚瓜、密甯瓜等十餘種、不知古人所云食瓜、的是何種、今人西瓜之外、無有薦賓客會食者、

南瓜產地
西瓜
名稱